

地域とのかかわり

コープは、行政や諸団体・企業とともに、消費者を重視した社会のしくみづくりに貢献します。

食に関する地域活動

■ 地元静岡産・水産品の「地産地消」を推進

コープしずおか

コープでは食を通して消費者の暮らしに貢献するため、「食と食料」政策に取り組んでいます。その一環として、静岡県漁業協同組合連合会と協力し、2010年の秋より大型・中型の19店舗において、地域で水揚げされた鮮魚や地元の水産加工品を専用売場を設けて提供しています。組合員の皆さんに静岡産の生産物の価値を再認識いただき、消費の拡大につなげることが目的です。

専用売場では、地場産品を一カ所にまとめ、取り扱い品目も従来以上に増やして提供しています。また、ニギス・ユメカサゴなどの「未利用魚※」についても、食べ方をお知らせしながら取り扱いを始めました。

専用売場では「しずおか地産地消推進協議会」が選定する地元静岡産の食材や加工品の消費拡大を組合員に呼びかけるとともに、漁業従事者との交流も進めています。

この取り組みは、フード・アクション・ニッポンアワード2010「製造・流通・システム部門」に入賞しました。



静岡県産海産物の専用売場
(コープしずおか)

未利用魚を原材料とした「あげはんぺん」

2010年12月より、コープしずおかの19店舗で未利用魚を活用したはんぺんの取り扱いを始めています。このはんぺんは静岡県漁連が浜松市の事業者と共同で開発したもので、浜松市の中学生が「あげあげあげはん」と名付け、2011年1月から浜松市の学校給食でも出されています。



あげはんぺんのパッケージ

※未利用魚とは、漁獲量が少ない・大きさが規格に合わないなどの理由で、流通に乗らない魚をさし、漁獲量の14%に上るといわれます。飼料に回され、低価格で取り引きされることが多いのですが、実はおいしい魚も多いのです。

■ 「神奈川・食育をすすめる会」の活動

コープかながわ

「神奈川・食育をすすめる会」は、2007年6月、神奈川県内を拠点とする食品小売業者の生活協同組合コープかながわ、相鉄ローゼン株式会社、富士シティオ株式会社の三者が、行政、神奈川県立保健福祉大学、お取引先の食品メーカー、食品卸業者とともに立ち上げました。県民の食生活に最も近いところで食品を扱う事業者として、事業と食育活動が一体的に進む状態をつくることをめざして活動しています。

「売場」からの食育情報発信を中心に、県民を対象としたイベント、売場責任者に対する食育勉強会など、特色のある多彩な活動を展開しています。

コープかながわでは、竹山店が横浜市緑区の野菜料理コンクールに協力し、作品募集や店頭での野菜料理の普及活動などを行いました。

また、消費者に接する従業員教育の一環として「食育キャッ



竹山店「緑をたっぷり召し上げれ 野菜料理コンクール野菜料理普及活動」
(2010年6月19日)

チコピーコンクール」を行い、消費者への食育情報発信に活用しました。この取り組みは、フード・アクション・ニッポンアワード2010「コミュニケーション啓発部門」に入賞しました。



「山梨県食の安全・安心条例(仮称)」 制定に向けた取り組み

市民生協やまなし

「食の安全・安心」の取り組みとして、2011年1月下旬から「山梨県食の安全・安心条例(仮称)」の請願署名に取り組みました。

現在、関東甲信越地方で「食の安全・安心条例」を制定していない県は山梨県のみとなっています。「いつでも、どこでも、誰でも、安全な食品を安心して手に入れ、食べることができること」は、組合員と県民の共通の願いです。市民生協やまなしでは組織を挙げて署名活動に取り組み、個人署名20,100筆、団体署名41筆を集め、県内の消費者団体とともに6月の定例県議会へ請願提出を行いました。

防災・防犯への協力

南アルプス市との災害時における生活必需物資の調達に関する協定

市民生協やまなし

2011年1月、南アルプス市と災害時における生活必需物資の調達に関する協定書を締結しました。「くらしの安全・安心」は市民・組合員の願いです。万一の時に備えた今回の協定締結は、地域との関係強化と社会貢献につながるものと考えています。地震などの災害時に、一部の例外を除く食品や日用品を南アルプス市へ供給します。

市民生協やまなしとしては、山梨県(県生協連として地域3生協で締結)、甲府市に続いての協定締結となりました。



南アルプス市との調印式

防犯活動の取り組み

コープしずおか

2011年2月にオープンしたコープ下野東店(静岡市清水区)では、開店に向けた事前訪問活動の中で、新店舗出店のお知らせと併せて地域の防犯活動に取り組みました。

事前に、地域を所轄する清水警察署の担当の方に実施内容(下記①～④)の確認を行い、「地域への防犯などの運動については大に行っていただきたい。歓迎します」との快いお返事をいただきました。

- ①ご年配の方の多い地域のため、訪問活動中にお会いできたご年配の方を中心にチラシをお渡しし、一声掛けを行う。
- ②小学生には、すれ違い時の一声掛けを行う。
- ③訪問時は腕章を着用し、配布用チラシを持参する。
- ④配布チラシは、お話しできた方にお渡しし、留守宅には配布しない。



訪問時は腕章を着用

社会・環境活動での協力

井田三舞店で、地域の中学生と組合員が「豚汁募金」(モルディブ指定募金)を実施

コープかながわ

1月27日(木)、井田三舞店に社会体験授業で来られた井田中学校の生徒さん(2名)と西中原中学の特別支援学級の生徒さん(6名)、そして幸区・中原区エリアの組合員が一緒になり、ユニセフへの寄付を行う「豚汁募金」に取り組みました。

中学生と組合員で300人分の豚汁を作り、来店された皆さんに「1杯50円以上」で提供しました(最低金額を50円として、それを超えてお支払いいただいた額を募金としました)。これにより1万5,637円の募金が寄せられ、全額を「モルディブのすべての子どもに栄養と未来を」の指定募金としてユニセフに寄付しました。



井田三舞店での豚汁募金

グリーンピアの花卉普及活動

神奈川県内生協・農協の共同出資会社

コープかながわ、うらがCO-OP、富士フィルム生協、コープ事業連合を含む神奈川県内の生協11団体、農協16団体は「平和で緑豊かな環境づくり、生産者と消費者の協同で、みどり」と花のあるまちづくり、みどりと花のある暮らしづくり、この運動・事業に役立つ流通の仕組みづくりをめざし、1990年に共同で花卉事業(株式会社グリーンピア)を立ち上げました。



作品

現在県内生産者(JA横浜・湘南・かながわ西湘)による花苗を中心に、毎週おうちCO-OPでの切花・苗のご案内やフラワーギフト、頒布会、園芸用品としての取り扱いのほか、コープの店舗・JA直売所、他生協などでも販売しています。さらに、フラワーアレンジ・ガーデニング講師養成講座(講師資格取得者累計75名)や講習会(参加者累計2,299名)など花卉普及活動に取り組んでいます。



活動の様子



グリーンピアロゴマーク